

芸備線早期再開 273団体が求める

JR西に要望書

西日本豪雨で設備に大きな被害を受け、大部分で運休が続くJR芸備線沿線の広島市安佐北区、安芸高田市の自治会など273団体が27日、早期の運転再開を求める要望書をJR西日本広島支社に提出した。

下深川―備後落合間は、鉄橋の流失や土砂の流入など計13カ所で重大な被害を受けた。狩留家―備後落合間の運転再開について、同支社は少なくとも1年以上かかるとしている。要望書は「運休が長期化すれば日常生活に及ぼす影響が尋常ではなく、大きな不安をかき立てられている」と指摘。「甚大な被害をきっかけとし、赤字路線を廃止することがないようお願いしたい」と訴えている。

この日は、安芸高田市の浜田一義市長や井原地区町内会自治会連絡協議会(安佐北区)の正木寿輔、基前会長たち約30人が支社を訪問。冒頭のみ公開され、要望書をつとめた河井克行衆院議員(広島3区)が北野真執行役員支社長に手渡した。

北野支社長は「被害を復旧して運転再開を図る。関係者と連携し復旧計画を早期に策定する」とコメントした。

JR芸備線の 早期再開要望

安芸高田市長ら

西日本豪雨で一部区間を除き運転を見合わせているJR芸備線について、安芸高田市の浜田一義市長や沿線の住民代表ら約30人が27日、JR西日本広島支社を訪れ、北野真支社長に「一日も早い全線再開」を求める要望書を手渡した。

JR西側は「全線復旧に少なくとも1年以上が必要」とする従来の見解を説明。理由として、土砂が流入した線路周辺の治山・砂防対策の必要性などを挙げた。

豪雨被害で芸備線は広島市安佐北区内の鉄橋の橋脚が流れるなど施設8カ所、電気系統で5カ所が被災。23日に広島―下深川間が再開している。